

平成27年度 第2回学校評議員会（記録）

岩手県立宮古工業高等学校

1 日 時 平成28年2月8日（月） 14時00分～15時00分

2 場 所 第1会議室

3 出席者 （1）評議員 菊池誠也（津軽石中学校 校長）

（敬称略）本田泰三（前PTA会長）

沼里正晴（会社員：同窓生）

伊藤貞二（会社員：同窓生）

（2）学校側 校長、副校長、事務長

総務部長、教務部長、生徒指導部長、進路指導部長

機械科長、電気電子科長、建築設備科長

4 内 容

（1）校長挨拶

（2）報 告

ア 今年度の宮古工業高校

- ・校 長 学校活動等の説明
- ・進路部長 進路状況等の説明
- ・機械科 技能検定の取得割合が大きく向上した。ジュニアマイスターの申請者も多く難しい資格取得にも取り組んでいる。
- ・電気電子科 ものづくり大会電気工事部門で2年生が準優勝し、1年生が6位に入賞した。資格取得や部活動にも力を注いでいる。
- ・建築設備科 課題研究では、ロボット班が全国大会でベスト3 2位と大健闘した。また、車いすの修理、スターリングエンジンカー・バーベキューコンロの製作などにもよく取り組んでいる。

イ 学校評価について

- ・生徒（生徒指導部）、保護者（総務部）、職員（副校長）

5 学校評議員からの質疑・意見・回答等

- 菊池誠也 様
- ・宮工は色々な活動を行っており、成果を残しており、職員がしっかりと手をかけているからだと思う。
 - ・首長会議で宮工のブースを見て、立派だと感じた。地域の大切な財産である。
 - ・中学校との復興教育として、クリーン大作戦・津波模型・鮭の放流など、具体的に進めていきたい。
- 本田泰三 様
- ・宮工はものづくりにおける教育が進んでいる。資格取得の意識付け、資格の内容を知るための工夫等を行っている。
 - ・学校へ保護者がより多く来校できる取り組みをしてほしい。
- 沼里正晴 様
- ・生徒数も減少しており、統合についてはしかたがないのではないか。
 - ・生徒への指導も頑張っているようだが、生徒の資格取得のしっかりとした目的を持ってほしい。

- ・生徒達には能力があるので、目標や目的意識を持ち、どんどん高いレベルにチャレンジしてほしい。
- ・関東からのUターンについては、戻ってくる原因を知り、受け皿としてどうしたらよいか、情報を共有できる場が必要である。
- ・道路の復興も進み、外に出やすくなった分、もっと人が来るようにしていくことが課題である。
- ・どこの学校の生徒か不明だが、自転車通学生のマナーが悪い。スマホをしながらや、2～3列の並進などがあり、マナーの指導が必要である。

伊藤貞二 様

- ・クラブ活動や色々な大会で活躍をしているのは、職員の努力も大きい。継続して活躍の場をつくってあげたい。
- ・大切なのは仕事にどんな思いがあるかが企業の求める人材である。学校側もそうしたことを知ってさらに指導してほしい。

進路指導部

- ・関東方面では、製造業の定着は良いが、土木系が他にやりたいことがあるということで辞めてしまうことがある。
- ・関東方面では、様々な職種があるが、戻ってくると受け皿も少なくなり、また始めからやり直さなければならない。
- ・宮古に戻ってくるにしても3年未満だと技術が身につけておらず、10年は働いてほしい。
- ・人口減少もあり、宮古の産業を継続できるような指導をしている。

機 械 科

- ・検定試験に国からの補助が出ているのも動機の一つである。
- ・資格を持っていない生徒が、持ちたいと思うこと。全員でやろうという意識付けを行っている。さらに、ゴールが見えてくると全体的に良くなっていく。

電気電子科

- ・検定への補助もあるが、各家庭のやる気への関わりも大きい。
- ・実習の内容に組み入れて取り組んでおり、そこで興味を持たせるようにしている。
- ・就職活動としても、部活動と同様に資格取得に意欲的に取り組むことを勧めている。

建築設備科

- ・設備関係の仕事に進みたい者は、進路にも有利であり関連した資格取得に取り組んでいる。